

伝統×国際化

——つながる世界と交わる想像力

現代において伝統文化は、もはや「過去の遺産」ではなく、国際的な文脈の中で再解釈され、再創造される「現在進行形」の文化となっています。本シンポジウムでは、能・狂言、日本映画、マンガといった多様なジャンルを通じて、ポップカルチャーと古典芸能、国内と国外、創造と継承が交差する場を探ります。

開催概要

日時：2025年**7月31日**(木)

18:20～21:00(17:50 開場)

会場：帝京大学霞ヶ関キャンパス
(千代田区平河町森タワー 9 階)

参加費：無料

定員：60 名 ※申込みが定員を超えた場合、千代田区民の方は追加受付します。

主催：帝京大学外国語学部国際日本学科、沖永総合研究所

後援：千代田区、日仏会館

申込み：Peatix にて無料チケットの
入手が必要です(会員登録無料)。
QR コードから Peatix 申込み
画面にアクセスできます。※電話申込みも可



地下鉄有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」4 番出口より 徒歩約 1 分
地下鉄銀座線・丸ノ内線「赤坂見附駅」7 番出口より 徒歩約 6 分

プログラム

●18:20～18:30

学科長挨拶

藤森 弘子 (帝京大学外国語学部国際日本学科 教授)

趣旨説明

ビューニユ・マガリ (帝京大学外国語学部国際日本学科 講師)

●18:30～20:50

話題提供 ※途中、休憩をはさみます

①「能は国際的になれるか—謡を外国語で謡う」

リチャード・エマート

(武蔵野大学名誉教授、英語能劇団「シアター能楽」創業者・元芸術監督)

②「マンガから能狂言へ

—日本ポップカルチャーと古典芸能の進化」

植 朗子 (四天王寺大学准教授)

③「能映画監督—吉田喜重」

マチュー・カペル (東京大学教授、日仏会館連携研究員)

④「伝統と革新：能の魅力」

梅若 ソラヤ (現代能の演出家・能の研究者・映像作家・起業家)

⑤「映像と響き—戦後初期の日本映画における古典の応用
と音楽の関わりを中心に」

鈴村 裕輔 (名城大学教授)

●20:50～21:00

閉会の挨拶 ビューニユ・マガリ